

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500328		
法人名	株式会社ジョウジマ		
事業所名	グループホームふるさと伊万里		
所在地	佐賀県伊万里市南波多町大川原4224-1		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年10月10日	外部評価確定日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者お一人お一人がいきいきとした笑顔で楽しく毎日を生活して頂く為に、スタッフが笑顔で挨拶・会話を心がけています。また、ご本人様のお気持ちをお聞きしながら残存能力に合わせ、お出来になる事を生かして取り組んで頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い山や田や畑などの自然に囲まれた、広い敷地に建つホームである。野の草花や花壇の花、田の稲に季節を感じ、自然の移ろいを感じる事ができる。門扉がなく開かれた庭は開放的であり、イス、テーブルやベンチが設置されてのんびりと時を過ごせる場が提供されている。ホームは建物内からも見晴らしが良く、入居者が外出する時なども気づきやすいため見守り支援がなされやすい構造となっており、入居者の自由な行動につながっている。一人ひとりが地域の中で、土と水と空気と人とふれあい、「その人らしく生きていただく」という事業所理念を基に、年齢を重ねても「あせらず、ゆっくり、一緒に暮らしましょう」と入居者に寄り添ったケアが提供されている。理念に沿って、毎年度、介護目標をスタッフ全員で作成し、入居者のしたいことや動きを妨げない、入居者の言動を受け止めて受容するなど入居者に寄り添った介護を心がけており、家族や入居者の思いを汲み取る努力をしている。地域消防団との連携もできており、防災面での安心につながっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、必ず理念を唱和し、スタッフ間での意識の共有、実践に取り組んでいる。新任研修時には、事業主より理念についての説明がなされている。	新人研修時に当事業所の意味を説明している。又、毎朝朝礼時に職員全員で理念や事業所内で作成した介護目標を唱和し、日々の実践に取り組んでいる。	認知症老人介護の原則に沿った介護を心がけ、地域の中でその人らしい生活を支えるという事業所理念を作りあげている。職員は、毎月の会議や日々の申し送り時に理念を唱和し、理念に沿ったケアの確認を行っている。職員は、入居者の言動を受け止め受容するよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との日常の挨拶や会話を積極的に行っている。地域行事への参加、又ホーム行事への呼びかけをしている。婦人会、老人会よりの慰問、小・中学校のボランティア活動の場にもなっている。	地域の方には、通勤時の挨拶、会釈、又来訪時には笑顔できちんと対応している。年一回地域婦人会の方に慰問に来て頂いたり地区夏祭りへの参加などを行い、交流を図っている。	自治会に入会し、地域の行事や祭に参加している。地元の小・中学生の福祉体験やボランティアを受け入れ、子ども達との継続した交流もある。ホーム行事には地域住民も参加されている。近隣住民とは日常的なあいさつや交流があり、野菜などのお裾分けを頂くなど日常的な地域生活がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問の際には、質問を受けたり現状をお話している。小・中学校の福祉体験、職場体験の受け入れをしている。また、市の認知症サポーター研修の受け入れも行っている。	小中学校の福祉体験や職場体験の活動の場を提供している。事業主が地域の方々に認知症についての講義を行い、貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、その都度状況の報告をしている。防火訓練、ホーム行事への参加もあり、特に防災については積極的な意見や地域の情報を提供して頂いている。	年6回の開催を行い、ホーム内行事の防火訓練やバーベキュー会への参加など事業所の現状を理解して頂いている。会議では、地域の方より貴重な意見や情報を提供して頂いている。	運営推進会議は区長や民生委員・行政職員・家族・消防団員などの参加で開催されている。会議では意見交換や情報交換がなされ、夜間対応防災で防犯灯増設を検討するなど、出された意見等は運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者が必ず参加され、事業所に対する意見をいただいている。その際、情報の交換を行っている。	運営推進会議には、市の担当者が必ず参加され、事業所に対する意見をいただいている。その際、情報の交換を行っている。	管理者は運営推進会議の参加を通して、市の担当者と直接情報交換ができています。見守りサポーター研修や実習を受け入れるなど行政との関係づくりもできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの管理室に、認知症GHの倫理綱領を掲げ、常に目に入るようにしている。事業所独自に身体拘束マニュアルを作成し勉強会を行っている。問題発生時には、その都度ユニットでの意見を出し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	ユニットの管理室に、認知症GHの倫理綱領を掲げ、常に目に入るようにしている。事業所独自に身体拘束マニュアルを作成し、勉強会を行い、新任研修や年度始めのスタッフ研修時に再確認を行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修を受けており、入居者の行動を妨げない、本人の意思を尊重した支援を心がけている。玄関は施錠しておらず入居者は自由に行動でき、地域の方の協力も得ながら職員は見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所でも虐待防止マニュアルを作成している。スタッフ会議、スタッフ研修で勉強し虐待防止に努めている。問題発生時には、申し送りや連絡ノートを利用しその都度ユニットでの検討を行っている。	事業所でも虐待防止マニュアルを作成している。スタッフ会議、スタッフ研修で勉強し虐待防止に努めている。問題発生時には、申し送りや連絡ノートを利用しその都度ユニットでの検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	(評価機関記入欄)
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の資料を保管し、いつでも利用者に必要な支援ができるようにしている。	以前、成年後見制度・生活保護について利用者に必要な支援が出来る様に勉強した資料をいつでも確認出来る様に保管している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、家族に対して契約についての説明を行っている。不明瞭な点がないか必ず家族に確認している。	入居時には、家族に対して契約についての説明を行っている。不明瞭な点がないか必ず家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会より事業所への意見、行事への参加をして頂いている。日頃より、電話や面会時などに家族との意見交換を行っている。	家族会を立ち上げ、運営推進委員会に参加して頂きホームの現状の報告や意見を頂いている。又、スタッフは電話・面会時に利用者様の状態報告や意見交換を行っている。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。日常の暮らしの中で感じ取った意見や要望は、申し送りノートに記載して職員間で情報を共有し、運営に活かしている。重要事項説明書に苦情受付窓口や苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はスタッフ会議、ユニット会議などで積極的に意見、提案をしている。そして出来る事から取り組んでいる。アイデアボックスが設置され、より迅速に対応できる環境である。	職員はスタッフ会議、ユニット会議などで積極的に意見、提案をしている。そして出来る事から取り組んでいる。アイデアボックスが設置され、より迅速に対応できる環境である。	毎日の申し送り時や毎月のスタッフ会議、3ヶ月毎のユニット会議など管理者は職員と話し合う機会を設けている。管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、要望や意見を聞くように心がけている。出された意見や要望は会議で検討され、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給を利用し、外部研修にも積極的に参加できる職場環境を整えている。職員旅行や親睦会も行われている。	有給を利用し、外部研修にも積極的に参加できる職場環境を整えている。職員旅行や親睦会も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のスタッフ研修及び新任研修を行っている。また、外部研修などの情報を提供し、積極的な参加を促しスキルアップを図っている。	月一回のスタッフ研修・新人研修を行っている。スタッフのレベルアップの為に外部研修に積極的に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者を交えた研修会を行った。その際意見交換を行い交流を図った。	認知症実践者研修等に積極的に参加したり実習生を受け入れを行っている。又、市内同業者を交えた研修会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があればホームの見学をして頂き、本人様との面談を行いゆっくりと話を聞くようにしている。状況の確認と情報を正確に受け取り、必要なケアの提供ができるように努めている。	必要なケアの提供が出来る様に努め、本人や本人に関わる事項をよく把握した上で、ケアプランの作成を行い、ホームの生活に馴染んで頂ける様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されたら、利用者の様子をこまめに家族、ケアマネに連絡し安心して頂ける様努めている。また、いつでも気軽にスタッフに声をかけて頂ける雰囲気づくりに努めている。	入居に至るまでは、利用者にお会いしたり、希望があれば体験入居をして頂いている。また、家族の要望や不安をお聞きしている（個人の名前、顔写真も公表していない）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況や本人の要望を詳しく伺い、必要なサービスを提供している。その時の状況により体験入居を利用して頂けるようになっている。	家族の状況や本人の要望を詳しく伺い、必要なサービスを提供している。その時の状況により体験入居を利用して頂けるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの残存機能を生かした役割を持って頂き、いきいきと生活して頂ける様支援している。	本人様が出来る事をスタッフ全体で見極め、自立支援に向けた残存機能の活用を目的として取り組んでいる。過去の生活歴をお聞きしながら支え合う事を基本とし、喜びあえる関係を図っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会はいつでも受け入れ、居室での家族との食事や会話を楽しんで頂くこととしている。また、外出等の申し出があるときは、利用者の状態を伝え、安心して外出できるよう支援している。	面会時、利用者様の近況をお伝えしたり電話や手紙でも報告している。又、年4回のホームで作成した広報をお渡しし、行事の参加の呼びかけも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や親戚の方など、遠慮なく訪問して頂ける雰囲気づくりに努め、团らんの場を提供している。また、外出の支援もしている。	基本的には、いつでも何方でも面会できるようにしている。行きたい場所などの要望以外でも外出を計画にいった支援をしている。	職員は入居者とできるだけ会話するよう心がけ、好きな事ややりたい事を感じ取るように努めている。入居前の友人や知人、趣味の仲間との継続的な交流ができるように場所の提供や連絡などの支援をしている。馴染みの美容室・理容室利用や墓参り、親戚宅訪問など入居者からの希望があれば、家族の協力も得ながら出来る限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクの時などの席の位置など考慮し、利用者のふれあいや会話がスムーズにいこう配慮をしている。	利用者同士がお互いに仲間意識を持って頂く様に、誕生日会など利用者全員で顔を合わせ、カラオケなどをし、楽しめる機会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたり他の施設に移られても、必要に応じて情報の提供を行っている。亡くなられた時には、通夜、葬儀へ参列させていただいている。	家族の要望により、本人に適した施設等の相談、援助、情報提供を行なっている。又、退居や他の施設に移られても通夜、葬儀への参列をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活を考慮しながら、趣味や特技が生かせる場を提供できるよう努めている。また、日常において本人の意思を大事にしながら、お手伝いなどをして頂いている。 (園芸、食器拭き、洗濯物たたみ等)	一人一人の要望は何なのかを認識した上で、日常生活の中に出来る事を可能な限り取り入れている。また、本人の意思を大切にしながら、希望に沿った支援を行なっている(食器拭き、洗濯物干し・たたみ、食事の準備など)	職員は入居者と会話する事を心がけており、日常の様子や言葉・表情・態度などから入居者の思いや意向を汲み取るように努めている。知り得た情報は申し送りノートに記載し、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネの情報を基にこれまでのサービス利用を把握し、生活のパターンを知るよう努めている。入所の際には、なじみの家具など愛着のあるものを使用して頂き、落ち着いて頂ける様努めている。	家族、ケアマネの情報を基にこれまでのサービス利用を把握し、生活のパターンを知るよう努めている。入所の際には、なじみの家具など愛着のあるものを使用して頂き、落ち着いて頂ける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の24時間の記録をすることで現状の把握ができるようにしている。また、記録用紙は個人にあった様式にしている。	利用者個人の24時間の記録をする事で現状の把握が出来る様に、スタッフ間で利用者の状況等・意見の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を三カ月に一度行い、スタッフ全員の意見を基に、担当者が介護計画書を作成している。本人の希望や家族の意見も反映させるようにしている。	ユニット会議を三カ月に一度行い、スタッフ全員の意見を基に、担当者が介護計画書を作成している。又、必要時に家族を交えてカンファレンスを行い、新たに介護計画を作成している。	入居者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。3ヶ月毎に評価を実施し、職員の意見や家族の意見・要望を取り入れて6ヶ月毎のケアプラン変更に向けて、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌、申し送りノートの活用により、現状の把握や日々の変化に気づくよう努め、スタッフ間で情報を共有し、介護計画書の見直しに活かしている。	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌、申し送りノートの活用により、現状の把握や日々の変化に気づくよう努め、スタッフ間で情報を共有し、一人一人に合ったケアが出来る様に支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて家族やボランティアの協力を得ている。個人の体調に合わせて受診や往診を利用している。状態に合わせての対応ができる体制をとっている。	必要な方に応じては、当事業所のPTIによるリハビリや通院リハビリの支援を行っている。又、月一回定期的に眼科や主治医の往診をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学校の職場体験の受け入れや、地域の老人会の慰問など外部との交流ができています。ボランティアでの月1回の映写会や生け花はとても楽しみにされています。	職場体験を取り入れている。又、地域の行事に参加しており老人会の見学、個人のボランティアなどの受け入れを行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を取り入れ、かかりつけ医を受診し継続した対応ができるようにしている。認知症に対しては専門医に相談している。病状の変化によっては、家族と相談のもと主治医の変更もあり得る。	本人、家族の希望を大切に入院前の掛かりつけの医師との関係を図りながら定期的な受診を行なっている。病状の変化時にはその都度受診し、認知症に関しては専門の医師への受診を行なっている。	事業所の協力医への変更をお願いしているが、入居者や家族の要望があればかかりつけ医の継続受診も支援している。通院は職員が対応し、受診結果や経過は、家族に説明報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や変化をこまめに看護師に伝え、日常の健康管理に努めている。必要に応じて医療機関を利用している。	看護職員との連携を取り、利用者の状態に応じて医療機関との連携を図り、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医との連携を図り、入院は最小限にして頂いている。(認知症である為)異常時や退院時にはホームに連絡が来るようにしている。家族の希望により、医師の指示のもとホームでの対応もしている。	早期退院が出来る様に病院と相談や情報交換を行っている。病院での対応が困難な場合は主治医の指導の下、医療機関との連携を取り行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意見を尊重し、重度化した時には医師を交えたカンファレンスを行い今後の方針を決めている。そして、家族、医療機関との連携を密にとり、ケアに取り組んでいる。	重度化した場合は、家族、掛かりつけ医、事業者とカンファレンスを行い今後の方針を定め、家族・医療機関と密に連絡を取っている。	終末期対応の指針があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入居者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、家族と事業所・主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成・活用し、個人で判断せず速やかに管理者に連絡し、指示のもと対応している。事業所でもマニュアルを作成し、勉強会を行い緊急の対応ができるように努めている。	緊急時の連絡網を作成・活用し、個人で判断せず速やかに管理者に連絡し、指示のもと対応している。事業所でもマニュアルを作成し、勉強会を行い緊急の対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。年2回防火訓練を行っている。訓練後は、避難・誘導についての勉強会を行っている。また、地区公民館を避難場所として提供して頂いている。	災害時のマニュアルを作成している。地区消防団にも防火訓練に参加して頂いている。災害時の避難誘導についても勉強会を行っている。	入居者も参加して、年2回消防避難訓練・避難誘導訓練が実施されている。訓練には地元消防団や区長・地域住民の参加もあり、協力体制ができています。職員は全員消火器が使えるように訓練されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や汚染時には、耳元でそっと言葉かけするなど、本人のプライド・プライバシーを大事にしている。また、居室のネームプレートや表札などは本人、家族の意向に沿って対応している。	玄関の表札や居室入り口の名前の明記は家族の意向に沿って対応している。	入居者本人の人格を尊重した言葉づかいや声掛けをしている。個人情報の利用目的を明確にし、入居契約時に家族等に説明して同意を得ている。個人が特定できる写真や氏名は、同意を得た入居者であっても特に慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、その日の服を選んだり飲み物を選択できるような対応、言葉かけを行っている。	まずは、本人の想いを受け止めた上で、自己決定出来る場を創出している。例えば、本人の意思で入浴時間を決め入浴して頂く・おやつなどを選択して頂くなどの対応を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビングの使い分けなど、利用者が自分のペースで生活できるよう、見守り・支援を行っている。	各利用者が自分のペースで日常生活が送れる様に見守り、支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れ、TPOに合わせた身だしなみやおしゃれをして頂ける様支援している。	外出の際は本人が好む服装をして頂き、女性の方は化粧、男性の方は整容に心がけている。爪きりや眉そりなど整容に関することは曜日を決め対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、味に気を配り旬の食材を使用している。また、利用者それぞれに合わせた食事形態にしている。下膳や片づけを一緒に行い、感謝の気持ちを伝えている。時折、利用者希望のメニューを取り入れている。	食事の際の配膳の準備、テーブル拭き、食器拭き、野菜の皮むきを利用者様が自発的にされている。食事のメニューについても一緒に料理本を見て食べたい物をお聞きし、メニューに取り入れている。	入居者の好みを聞いて献立に活かしたり、旬の食材を活用して季節感を食す支援がなされている。食事の下ごしらえや台拭き・下膳・食器拭きなど入居者ができることは職員が見守りながら支援している。職員は入居者と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態・病状・希望に合わせた食事内容、食事量にしている。夏場は特に水分補給の支援をしている。夜間の配茶や水分チェックなど必要に応じ随時行っている。	各個人に合った食事量を提供している。常に入浴時、就寝時、起床時には細めな水分補給を行い、必要時には水分量チェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや口すすぎなど、その日の状態に合わせた言葉かけや誘導・支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後には口腔ケアを行い、日誌にてチェック管理を行っている。又、個人の状態に合わせてうがいなどをし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調や状況に合わせて、オムツの使用は最小限にしている。記録によりパターンを把握し、利用者に応じた時間を見ての言葉かけ、誘導の支援を行っている。状況によりポータブルトイレも利用して頂いている。	体調や状態に合わせてオムツの使用は最小限にし、記録によりパターンを把握し時間を見て言葉掛け、誘導を行っている。また、状態観察が出来た事で、昼間のオムツから布パンツへの使用の方が増えられた。	声掛けや誘導時間を把握し、入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。声掛けや誘導でトイレで排泄できるよう支援しながら、パッドや紙パンツなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、医師の指示のもと個人に合わせた緩下剤の使用、水分や野菜・果物の摂取を心がけ、腹部マッサージを行ったりしている。	排便チェックを行い、果物、野菜、水分の摂取を心掛けている。緩下剤等の服用は、主治医の指導の下服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて、入浴や清拭の支援を行っている。また、安全にゆっくり入浴して頂ける様心がけている。	利用者の体調や希望に合わせて、ゆっくり入浴して頂いている。またお一人でゆっくり入浴して頂ける様、言葉掛け・見守りを行い、季節や体調に合わせて、浴室などの室温調整を行なっている。	毎日の入浴が支援されている。好みの入浴剤を使用し、入浴が楽しみになる工夫がなされている。個浴が基本であるが、友人と入浴される入居者もおり、職員は見守りながら支援している。シャワー浴や清拭など必要に応じた対応もなされている。入浴を嫌がられる入居者には無理強いをせず、時間や対応を変えたり声掛け等をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の温湿度計を確認し、空調管理を行っている。個人の状態に合わせて日中の休息も支援している。また、季節ごとの寝具、衣類の調整を行っている。	各居室の温湿度計を設置している。季節に合わせて寝具の調整、空調の管理を行なっている。利用者に応じては、日中居室やソファでの休息を促す支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認できるようにしており、看護師の指示のもと行っている。服薬の確認は、管理日誌に記録している。症状の変化を見逃さない様に努め、医療機関との連携を図っている。	内服確認は、内服一覧表をカーデックスに挟み、いつでも確認できるようにしている。作用・副作用などの把握も出来る状態にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた園芸や生け花を楽しんで頂き、作品は展示をしている。また、掃除や食器拭きなど負担にならない様に気を付けながら一緒にして頂き、感謝のことばを伝えている。	編み物や裁縫、家事のお手伝いをして頂き、生きがいを見出だして頂いている。生け花教室を利用し、楽しみを提供出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調により、ホーム庭の散歩や季節ごとの花見や紅葉ドライブなどを楽しんで頂いている。また、状況を見ながら家族の了解のもと、野球・サッカー観戦にも出かけている。	利用者の希望や体調により、ホーム庭の散歩や季節ごとの花見や紅葉ドライブなどを楽しんで頂いている。また、状況を見ながら家族の了解のもと、野球・サッカー観戦にも出かけている。	入居者は自由に近隣散歩や庭の散策を楽しんでいる。敷地は広くて庭に机やイス・ベンチが用意され、入居者等のお茶会や日向ぼっこに活用されている。季節の花見やドライブなど、なるべく外出の機会を増やす支援もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(さわ棟)	自己評価／ユニットB(ゆい棟)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	(評価機関記入欄)
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはスタッフが預かり、個別ノートにて管理している。本人の希望により、家族の承諾のもと、ある程度は自由に所持して頂いている。	本人や家族の希望により、ある程度は自由に嗜好品など購入して頂いている。買い物時にスタッフが同行して自分で支払いをされる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛ける支援を行っている。家族からの電話には、ゆっくり会話を楽しんで頂けるようにしている。また、携帯の充電などそれとなく気を付けている。	利用者の希望を聞き、家族に連絡を取っている。誕生日・父の日・母の日等家族よりお手紙やプレゼントが届いたら、直接本人と会話が出来る様に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい空間づくりに努めている。照明や空調にも注意し、心地よく生活して頂ける様努めている。また、季節感のある飾り付けを行うようにしている。	日頃より清掃、環境整備に心がけ不快臭に関しては換気をしたり、居室には空気清浄機を設置して居心地良く過ごして頂ける様にしている。	ホーム内は木質調に色彩が統一され、温もりのある優しい落ち着いた雰囲気となっており、天窓から心地よい光が入っている。窓を全開しての換気を心がけている。清潔を心がけ、消臭剤を活用して嫌な臭いがないように努めている。玄関やホーム内は季節の花や手づくり作品が飾られ、季節感を取り入れる工夫もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、1人～4人がけのソファを配置し、好きな場所のを利用して頂いている。畳の間もあり自由に座ったり横になったりできる。	玄関横に椅子を置いて共用の一人になれる空間を作っている。中庭にもベンチや椅子、テーブルを置き、好きな時にお茶を飲んだり談話したりできる様に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでもらったり、その方の動きに合わせた配置を行い、落ち着いた過ごして頂けるようにしている。	馴染みの家具を持ち込んでもらったり、その方の動きに合わせた配置を行い、落ち着いた過ごして頂けるようにしている。	居室は畳の部屋とフローリングの部屋が用意されている。入居前に使用されていた家具類や使い慣れた品物の持込みを支援している。室内にはカレンダーや写真・手芸品・花などが飾られ、その人らしい居室づくりが支援されている。仏壇を持参されている入居者も複数人おられ、毎朝のお供え水などは職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かるようにネームプレートを下げたり、トイレのドアには大きく張り紙をしている。また、廊下やトイレなど必要な場所には手すりを設置している。	必要な所には手すりを設置している。また、居室やトイレなどの場所が分かる様に大きく目印をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
		○		2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない